新発生・異常発生病害虫の原因究明と対策

【研究概要】

東京都では、極めて多品目の農産物が栽培されているため、生産現場では多種多様な原因不明の障害が発生し、農業経営に大きな影響を与えている。農業生産の安定化のためには、未解明症状の原因を究明し、的確な対策を講じることが必要である。そこで、病害虫に関する障害について、早急に原因生物を特定し、その生理、生態を解明し的確な防除対策を推進することを目的に試験を実施した。

（１）全国的に多発傾向にあるブロッコリー黒すす病について、都内における病原菌の菌種と、主要品種の感受性を明らかにした。

（２）コマツナの裏作で緑肥として栽培しているソルゴーに原因不明の生育不良が発生した。調査の結果、2種の菌類が病原として関与しており、そのうち1種はコマツナの生育不良を引き起こす菌であることを明らかにした。

（３）果樹類や植木類の害虫である外来種のチュウゴクアミガサハゴロモについて、卵および幼虫に対する薬剤感受性を調査し、有効薬剤を明らかにした。また、越冬卵を複数温度下で飼育・孵化させることで、発育零点と有効積算温度を求めた。これにより気象データから孵化最盛期を予測でき、防除適期を推定することが可能となった。

（４）利島のツバキの枝を切り落とす被害を引きおこすヨコヤマヒメカミキリの幼虫および蛹の発育零点と有効積算温度を明らかにし、気象データから落枝の防除適期を予測することが可能となった。